



周南市 戦後80年事業 記録誌

2025年5月1日^木—12月26日^金



目次

1	事業目的		3
2	基本方針		3
3	テーマ・コンセプトコピー		3
4	アクションテーマによる参加促進		3
5	事業期間		3
6	チラシ・ポスター		4
7	戦後80年事業の記録		5
	「見る」		6
	「学ぶ」		21
	「体験する」		26
	「参加する」		29
	「まちづくり」		36
	「その他」		37

想いをつなぐ、未来へ。
昭和100年これからの周南



戦後80年

1 事業目的

戦後80年を契機に、市民が戦争体験や証言に触れることで、本市の戦争の歴史を知り、戦争の悲惨さや、平和の尊さ、命の大切さについて考え、戦争を繰り返してはならないことを実感するとともに、戦後のまちづくりを担ってきた先人の努力や想いを受け継ぎ、その功績を未来に伝え、つなげる。また、本市の特色ある歴史資源である回天の遺構や資料の紹介を通じて広く本市から平和の大切さを発信する。

2 基本方針

(1)本市の戦争実態を次世代へ継承

市民が、本市の戦争体験や証言などから、戦争を繰り返してはならないことを学び、その想いを受け継ぎ、記録し、発信するきっかけとなる事業を実施します。

(2)先人による戦災復興の功績を未来のまちづくりに活用

先人の戦災復興の取組を、産業や町並み等のテーマごとに分類し、現在に継承されている価値や想いを未来のまちづくりに活用できる事業を実施します。

(3)回天の遺構等の保全及び平和発信(ピースツーリズム)の推進

全国的に貴重な回天の遺構や資料の保全を行うとともに、遺構等から、戦争の悲惨さや平和の尊さ、命の大切さを世界に発信していけるよう事業を実施します。

3 テーマ・コンセプトコピー

戦後80年 想いをつなぐ、未来へ。昭和100年これからの周南

「終戦の年から80年。周南市民の戦争体験。回天の出撃。復興へのたゆみない努力や想い。今年は、数々の戦争の記憶に触れながら、未来の幸せをいっしょに考え、伝えていきましょう。」

4 アクションテーマによる参加促進

市民、企業、団体等が、戦後80年事業に参加しやすくするために、5つのアクションテーマを設定しました。

各テーマをさまざまなメディアを活用して発信し、参加促進を図ります。

(1)見る (2)学ぶ (3)体験する (4)参加する (5)まちづくり

5 事業期間

事業期間:令和7(2025)年5月1日～12月26日

令和6年9月から、準備期間として、戦後80年に向けて周南市全体の機運を高めるための取組を行いました。

6 チラシ・ポスター

周南市

戦後80年



戦後80年 想いをつなぐ、未来へ。
昭和100年 これからの周南

2025年5月1日(木) - 12月26日(金)

周南市では期間を通じてさまざまなイベントを企画しています。

周南市

チラシ(表)

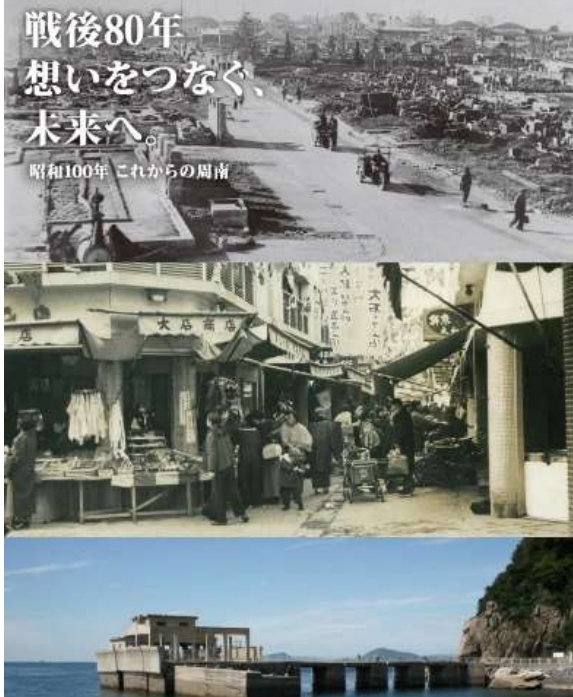
戦後80周年周南市 Schedule & Contents

月	日	内容
3月	3.14(土)	① 写真展「戦後80年」
4月	4.1-12.26	② コレクション展「戦後80年をたどる」
5月	5.1-12.26	③ 戦後80年をたどる展(仮称)
6月	6.1-12.26	④ 戦後80年をたどる展(仮称)
7月	7.1-12.26	⑤ 戦後80年をたどる展(仮称)
8月	8.1-12.26	⑥ 戦後80年をたどる展(仮称)
9月	9.1-12.26	⑦ 戦後80年をたどる展(仮称)
10月	10.1-12.26	⑧ 戦後80年をたどる展(仮称)
11月	11.1-12.26	⑨ 戦後80年をたどる展(仮称)
12月	12.1-12.26	⑩ 戦後80年をたどる展(仮称)

チラシ(裏)

周南市

戦後80年



戦後80年 想いをつなぐ、未来へ。
昭和100年 これからの周南

2025年5月1日(木) - 12月26日(金)

ポスター(キービジュアル)

7 戦後80年事業の記録



見る



学ぶ



体験する



参加する



まちづくり

その他



■戦時下の日本

周南市美術博物館では、戦後80年にちなみ、写真家・林忠彦の「戦時下の日本」シリーズを展示した。林は戦時中、兵士や軍需工場で働く女性、農村の人々など、戦時下の日本社会を撮影した。男性が徴兵される一方、女性や子どもも工場や農作業などに動員され、戦争は人々の暮らしを大きく変えた。

写真を通して当時の生活を振り返り、戦争の記憶と平和の大切さを考える展示となった。

●開催日：令和7年3月1日(土)～6月15日(日)

展示室 4 林忠彦記念室

戦時下の日本 6/15(日)まで

戦後80年にちなみ、「戦時下の日本」シリーズを展示します。

林忠彦は、昭和14(1939)年に上京し、翌年東京光芸社に入社します。内閣情報部主催の写真展に出展し好評を得たことをきっかけにプロ写真家としてデビューしました。内閣情報部編集の『写真週報』での連載を始めとして、次々と作品が掲載されました。さらに昭和17(1942)年、北京大使館の外郭団体として華北弘報写真協会を結成します。半年ごとに東京と北京を往復し、報道カメラマンとして、戦場へ向かう兵士たちや軍需工場で働く女性たち、市街地の様子や農村部の人々など、当時の状況を各地で撮影しました。



「出勤 松戸飛行場」1942年 撮影 林忠彦

展示室 4 林忠彦記念室

戦時下の日本 6/15(日)まで

戦後80年にちなみ、「戦時下の日本」シリーズを展示しています。

「華北弘報写真協会」を結成した林は、約半年ごとに東京と北京を往復していました。日本では各地で戦時中の状況を撮影し、写真は雑誌に掲載されました。当時、成人の男性は徴兵されたため、深刻な人手不足でした。労働力不足を補うため、独身の女性が軍需工場などに動員されました。林は、工場や鉱山などで働く女性の姿を撮影しています。



「働く女性 昭基鉱山」撮影 林忠彦

展示室 4 林忠彦記念室

戦時下の日本 6/15(日)まで

戦後80年にちなみ、「戦時下の日本」シリーズを展示しています。

戦時中、成人の男性は徴兵されたため深刻な人手不足でした。労働力不足を補うため、独身の女性が軍需工場や鉱山などに動員されました。さらに、子どもたちも勤労奉仕に駆り出されました。林は、みかんの収穫や留守家庭の庭の清掃など、子どもや学生たちが働く姿も撮影しています。



「ミカンの収穫を手伝う早川国民学校児童」撮影 林忠彦

▲「かるちゃあ通信 花畠」

■①カストリ時代－復員・戦後混乱期を生きる人々

■②カストリ時代－戦後復興と娯楽・文化

林忠彦が、戦後すぐから10年あまりにわたり、戦後の風俗や世相を人間味あふれる眼で東京を撮り続けた作品「カストリ時代」も2回に分けて展示した。

●①開催日：令和7年6月17日(火)～9月30日(火)

●②開催日：令和7年10月1日(水)～12月28日(日)

●開催場所：周南市美術博物館 展示室4

※その他の展示

「徳山空襲と戦後の復興」

開催日：令和7年5月1日(木)～8月31日(日)

開催場所：歴史展示室特設コーナー



■コレクション展「戦後80年を迎えて」

周南市美術博物館では、戦後80年の節目に「コレクション展『戦後80年を迎えて』」を開催した。展示では、周南市出身の画家・宮崎進の作品を中心に、戦争と人間、平和について考える機会を提供した。戦争で命や夢を奪われた人々の姿を伝える作品とともに、戦後80年を迎えた今、戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さを改めて考えさせる展覧会となった。

●開催日: 令和7年3月26日(水)～6月15日(日)

●開催場所: 周南市美術博物館 展示室3



宮崎進「友人の声」1990年 青銅



宮崎進「友人の声」1990年 黒鉛・白粉・ペーパー



宮崎進「花と大地」2012年 油彩、ミクストメディア、麻布・合板

コレクション展「戦後80年を迎えて」 6月15日(日)まで開催中 <展示室3>

戦争が終わって80年が経ちました。それは「二度と戦争を起こしてはならない」という思いに包まれた歳月でした。

現在、常設展ではコレクション展「戦後80年を迎えて」を開催しています。その中から宮崎進の作品をいくつか紹介します。

画家・宮崎進(1922-2018)は、大正11年に周南市内の御弓町に生まれました。昭和14年に日本美術学校油絵科に入学しましたが、昭和17年に召集され戦地で戦死しました。その後、4年に及ぶシベリア抑留を体験しました。

帰国後、彼は画家として出発し、シベリアをテーマに多くの作品を残しました。その中には右の「Voice of Friends」のように麻布袋を板に貼り付け、その上から油絵を塗った作品もあります。シベリアの収容所で宮崎は、食料などを運ぶ麻の袋をほどいて絵を描いていたこともあり、麻布袋は、彼にとっては特別な意味を持っています。

「板画シベリアシリーズ」の「ある朝」には、シベリアでの過酷な体験を物語る情景が描かれています。宮崎は著書『島のように』の中で次のような文章を残しています。

一春が来る前に軍曹は死んだ。壁から垂れた細い糸は風が冷え、虜囚たちの心を揺った。何も残らなかった彼には、待ちわびる妻子があったという。

また彼は、過酷な戦争体験だけでなく、そこで感じた自然の雄大さ、強い生命力、希望の光といったものも表現しています。「花咲く大地」には、長い冬の開けた大地を覆っていた厚い氷が春に溶け一斉に咲き始めた花々が描かれています。彼の地で捕虜となり死と絶望をくりかえした宮崎は、その光景に生きる喜びを見いだしたのでした。

本展では、耐え難い戦争体験を生きる希望へと昇華させた宮崎進の作品とともに、画家を目指しながらも志半ばで戦死した周南生、久保克彦の作品(3ページ【常設展示 展示室3】参照)も展示しています。

ウクライナ侵攻やガザ侵攻など、現在でも世界では分断や対立が広がっています。これまでどれほど多くの命が失われ、どれほど多くの苦しみや悲しみの涙が流されたことでしょうか。いまいちど立ち止まって、戦争のない世界を考えるきっかけになればと思います。

(周南市美術博物館 学芸員 今井良枝)

※「島のように」シベリア 2008年 宮崎進 (京都府立)より

あわせて3ページ【常設展示】もどうぞご覧ください。

美術博物館ホームページはこちら





■ 徳山空襲と戦災復興に関するパネル展

徳山空襲と戦災復興に関するパネル展を市内の5施設で開催し、戦中・戦後の歴史を再認識するとともに、戦争の悲惨さ、復興のための先人の努力、さらに未来への展望を示した。

●開催日等

- | | |
|------------|-------------------|
| ・本庁ロビー | 5/12(月)～ 6/ 6(金) |
| ・学び交流プラザ | 6/10(火)～ 7/ 3(木) |
| ・徳山駅南北自由通路 | 7/ 7(月)～ 8/31(日) |
| | 11/17(月)～12/25(木) |
| ・コアプラザ鹿野 | 9/ 3(水)～ 9/25(木) |
| ・熊毛総合支所 | 10/ 1(水)～10/22(水) |



▲本庁ロビー

◀ 徳山駅



■戦後80年 徳山空襲・戦災復興写真展

工藤洋三氏から提供いただいた徳山空襲前後の周南市街地の航空写真のパネル展示を開催。周南市(旧徳山市)の戦前・戦後の写真など関連の図書館資料の展示も行い、閲覧・貸出を行った。

展示を目的に来られる方だけでなく、図書館に来館した利用者が気軽に立ち寄れるような展示として、多くの来館者に見てもらうことができた。

●開催日:令和7年6月26日(木)～8月31日(日)

●開催場所:周南市立中央図書館 2階展示コーナー



▲展示風景



■戦後80年事業 想いをつなぐ、未来へ。 ～写真でたどる、復興の足跡～

市民に周南復興の歴史を紹介する写真パネル展を開催した。
また、体験企画として、周南市の写真(商店街)からパーツを
抽出してマグネットにし、それらを組み合わせて形にするなど、
未来と平和について考える体験ブースを設置した。

さらに、共通のテーマを扱っており、過去と現在を比較する
ことができる図書の展示を行った。

●開催日時:令和7年9月1日(月)～10月31日(金)
8:00～22:00

●開催場所:周南市立徳山駅前図書館1F アートウォール



▲展示風景



■戦争体験者証言映像上演会

戦争体験者の証言映像上映会を開催し、戦中・戦後の歴史を再認識するとともに、戦争の悲惨さ、復興のための先人の努力を改めて市民に周知した。

●開催日等

- ・美術博物館ロビー 5/10(土)～12/28(日)
- ・本庁ロビー 5/12(月)～ 6/ 6(金)
- ・周南市民俗資料館 6/ 2(月)～ 9/29(月)
- ・新南陽総合支所ロビー 6/10(火)～ 7/ 4(金)
- ・ホームページ公開(随時)

●出前トークでの証言記録DVD上演

- ・7/22 富田東地区コミュニティセンター 30人
- ・7/23 地域交流センター 28人
- ・7/28 中央地区市民センター 20人
- ・7/31 新南陽総合支所 16人
- ・8/ 4 岐山市民センター 25人
- ・8/21 福川南地区コミュニティセンター 13人



▲上映会の様子



■映像記録「平和への願い～未来に伝える 徳山空襲と戦争の記憶～」1、2の制作

徳山空襲体験者や人間魚雷回天関係者など、のべ8名の戦争体験者から聞き取り調査を行い、映像記録を制作した。

戦争体験者の高齢化により直接実体験を聞くことが困難な状況となっており、当事者の肉声をもって戦中・戦後の体験を映像資料として記録することで、次世代に継承していくことにつながった。

●開催日:令和6年度～7年度



▲DVD



▲撮影の様子



■「戦後80年 想いをつなぐ、未来へ」発行

徳山空襲と戦災復興に関する小冊子2,000部を発行し、市役所・支所等で配布したほか、市のホームページに掲載することで、戦中・戦後の歴史を再認識するとともに、戦争の悲惨さ、復興のための先人の努力、さらに未来への展望を示した。

●開催日:令和7年度



▲小冊子



■前期:戦中・戦後のくらし 後期:教科書が語る時代 ～戦中・戦後の 子供たちと学び～

前期企画展は、戦中・戦後の生活に関する資料などを通じて、人々が困難な時代をどのように過ごし、生き抜いてきたのかを紹介した。

後期企画展は、昭和初期から戦後にかけて使用された教科書や教材の展示を通じて、激動の時代を生きた子どもたちの「学び」の姿を紹介した。

- 来館者:前期 531人
後期 124人
- 開催日:前期 6月2日(月)～ 9月29日(月)
後期 11月1日(土)～12月24日(水)
- 開催場所:周南市民俗資料館



▲展示風景



チラシ▶



■「平和への願い～未来に伝える 徳山空襲と戦争の記憶～」の放映

●内容

文化振興課が作成した「平和への願い～未来に伝える徳山空襲と戦争の記憶～」を新南陽総合支所ロビーに設置しているテレビで放映した。

●成果

足を止めて見ているお客様もいた。チラシやポスターとは異なり、映像と音があるので、よりお客様の目につきやすかったと考える。

●開催日：令和7年6月～7月

●開催場所：新南陽総合支所ロビー



▲放映風景



■演劇「あゝ大津島 碧き海」

人間魚雷「回天」の特攻隊員をテーマとした演劇を上演した。プロデューサーで俳優の若林哲行さんの企画制作で、出撃することができなかった老人と新聞記者の会話を軸に、回天搭乗員に志願せざるを得なかった若者たちの心情を描いたものである。

戦争を体験された方々が少なくなっている中、回天記念館を有する本市の戦争の歴史を知り、演劇を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さ、命の大切さについて、心を寄せる時間となった。

●来場者:934人

●開催日:令和7年8月3日(日)

●開催場所:周南市文化会館



▲碧き海集合写真



碧き海ポスター▶



■「平和を愛する徳山大仏」公演会

山口子どもの文化研究会の協力を得て、徳山空襲を題材とした紙芝居「平和を愛する徳山大仏」の公演、資料見学、昔の遊び体験を行った。子どもたちが、紙芝居をとおして平和について学ぶきっかけとなった。

- 参加者:29人
- 開催日時:令和7年8月20日(水) 10:00~11:30
- 開催場所:周南市役所 徳山港町庁舎



▲チラシ



▲公演会の様子





■山口県の空襲を伝える写真展

山口県空襲展実行委員会が主催。アメリカの国立公文書館が保管する戦時下の山口県内を撮影した航空フィルムを、クラウドファンディングにより大判パネル化したものを展示。

期間中は、実行委員会のメンバーがパネルの開設なども行った。

パネルに写った建物に関する情報なども寄せられた。

●来場者:380人(市内外)

●開催日:令和7年11月27日(木)～12月12日(金)

●開催場所:周南市立中央図書館 視聴覚室



▲展示風景



■ 山口県の空襲を伝える写真展 特別企画 紙芝居「とけたビー玉」上演

「山口県の空襲を伝える写真展」の開催に合わせて、山口子どもの文化研究会による紙芝居「とけたビー玉」を上演。

紙芝居の上演前には、戦争に至る過程や焼夷弾の構造などを解説。「とけたビー玉」は、今から約40年前に子どもたちや母親に徳山空襲を語り継ごうと制作された紙芝居で、小学校の平和授業などでも上演されている。

●来場者:32人

●開催日:令和7年12月7日(日)

●開催場所:周南市立中央図書館 視聴覚室



▲上演の様子



■「戦時下・なつかしの古写真」募集

戦後80年を契機とし、周南市の当時の人々の暮らしや街の様子などの歴史・文化を記録し後世に伝えていくため、古写真を募集した。

当時の思い出や興味深いエピソードとともに様々な年代の写真が集まり、周南市の過去や現在、そして未来へと繋ぐ貴重な情報となった。お寄せいただいた古写真は、市の共有財産として長期的に利用する。なお、古写真の一部は、「周南市戦後80年事業特設サイト」でも紹介した。



▲古写真



■旧市長公舎一般見学会

市長公舎は、大正時代を代表する和洋折衷の木造住宅で、平成20年に国の登録有形文化財に登録されている。自由見学とともに観光ボランティアによる案内を実施した。

今年度は「戦後80年事業」の一環として、空襲のあった5月10日に見学会を実施したことで、本市の歴史の一端を広く市民に実感してもらう機会となった。

- 参加者:21人
- 開催日:令和7年5月10日(土)
- 開催場所:旧市長公舎



▲旧市長公舎



米国立公文書館などで空襲に関する調査を続ける戦史研究家の工藤洋三氏を招いて、徳山空襲と戦災復興に関する講演会「米軍が記録した徳山空襲」を開催した。

●参加者:117人
●開催日:令和7年8月9日(土) 14:00~15:30
●開催場所:徳山保健センター



▲講演会の様子



■ 回天記念館夏休み親子教室・冬の特別講座

小・中学生とその保護者を対象とした「回天記念館夏休み親子教室」を開催し、小学5年生から中学生までの児童生徒と保護者の参加があった。

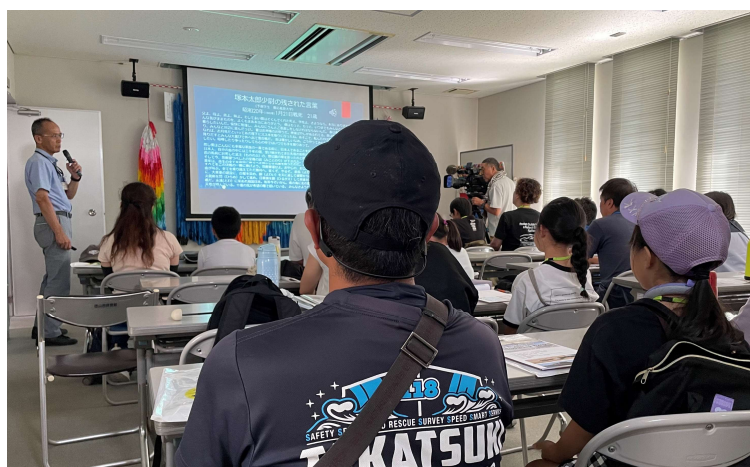
記念館職員による講話を聴き、遺書や遺品等の展示を見た後、全国で唯一残っている訓練基地跡等を見学した。参加者からは、「親子で参加できて良かった」、「家に帰ってから今日のことを話したい」等の感想が寄せられた。

また、戦後80年を契機とし、12月26日・1月6日には「回天記念館冬の特別講座」を広く一般向けに開催した。

●参加者:21人

●開催日:令和7年7月26日(土)

●開催場所:周南市回天記念館、回天訓練基地跡周辺



▲親子教室の様子

■楽しみながら平和について考えよう！



昔の遊び体験教室

●内容

最初に、DVD「平和への願い～未来に伝える徳山空襲と戦争の記憶～」を放映した後、昔遊びの体験やデコレーションベーゴマを作成する講座を開催した。

●成果

新南陽地区の小学生が参加。付き添いの保護者も数名おり、「戦争について知りたかったので、よかった」、「戦争の悲惨さの学習ができてよかった。またこのような機会があれば参加したい」といった意見をいただいた。

●参加者:16人

●開催日:令和7年7月31日(木)

●開催場所:新南陽総合支所会議室



▲体験学習の様子



■戦後80年を考えるワークショップ

戦争体験者と子どもたちが対話し、平和について考える「ピース・ディスカッション」や「戦時食「すいとん」の試食会」、「昔の遊び体験会」など様々な視点から当時の暮らしを考えるワークショップを開催した。

- 参加者:24人(うち子ども12人、保護者6人、公立大生6人)
- 開催日:令和7年8月13日(水) 10:00~11:30
- 開催場所:周南市民俗資料館



戦後80年

子供向け 戦後80年を考える
ワークショップ

2025年 8/13 水 午前 10時~11時30分

会場: 周南市民俗資料館 (周南市中畠町15-22)
対象: 小学1年生から中学3年生までのお子様と保護者

1 ピース・ディスカッション
戦争を体験された方とお話しして、平和について考えてみよう！

2 すいとん試食会
戦時中、食卓に並んだ食事を試食してみよう！

3 昔の遊び体験
当時の遊びとして人気があった。メンコ・ペーゴマ・けん玉・ヨーヨーなどで遊んでみよう！

参加無料

こちらの申込フォームにてお申し込みください
申込フォーム 定員20名 受付が切 7/31 (木)
先着順につき、締切日前に受付を終了する場合があります

主催 周南市文化振興課 ☎0834-22-8677 周南市 戦後80年 戦後サイト

▲ワークショップの様子

▲チラシ



■第27回 西緑地樹木観察会

今回で27回目となる西緑地樹木観察会を行った。前日の雨で、足元の悪いところもあったが、天気にも恵まれ、参加者たちは珍しい樹木やバイオマスに使われる早生樹を見て実際に触れながら、案内人の話に熱心に耳を傾けていた。

当日は、1回目の徳山大空襲があった日でもあったので、西緑地の中にある戦争遺産も巡り、途中全員で黙とうし、戦争で亡くなられた方々の冥福を祈った。

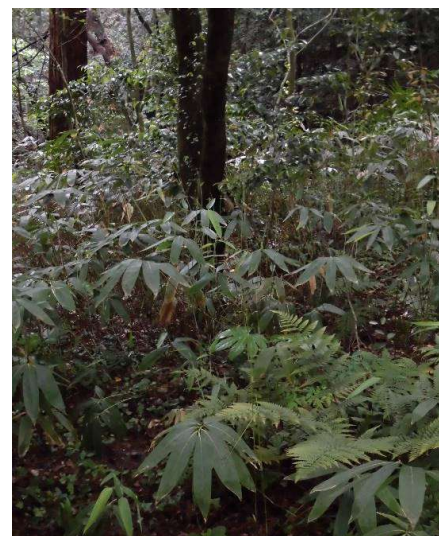
- 参加者:20人(一般市民)
- 開催日:令和7年5月10日(土) 9:00~12:00
- 開催場所:周南緑地(西緑地)内



▲防空指揮所跡



▲早生樹のチャンチンモドキ



▲熊笹の花が咲いていました



■歩いて健康！歩いて発見！ 戦争遺跡を巡る歴史探訪ウォーク

参加者は、出発前にインストラクターから正しいウォーキング方法を学び、楽しく無理なく運動する習慣を身に付けた。

その後、ガイドによる解説を受けながら、周南緑地に残る海軍燃料廠の貯蔵タンクや砲台、探照灯などの戦争遺構を巡った。

参加者は、遺構がたどった歴史に思いを馳せながら、心地よく汗を流し、健康づくりを図るとともに、戦争の記憶を後世に伝える機会となった。

- 参加者:25人
- 開催日:令和7年11月15日(土)
- 開催場所:周南緑地(東緑地～西緑地の約4kmコース)



▲ウォーキングの様子



■戦後80年ウォークイベントin昇仙峰

戦後80年を迎える節目の年に、戸田地区の昇仙峰に残る戦争遺構をウォーキングで巡りながら、運動機会の提供と体力向上を図るとともに、戦争の悲惨さや平和の尊さを学ぶ貴重な機会となった。

- 参加者:40人
- 開催日:令和8年1月25日(日)
- 開催場所:昇仙峰



▲ウォーキングの様子



■「平和の鐘を鳴らそう」

ユネスコ憲章の前文に謳う「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という精神をひろげ、平和の尊さ、平和な世界について真剣に考え、世界平和の大切さを呼びかける。

●実施内容

- ・終戦記念日に、回天記念館前庭で式典を開催し、参加者全員で平和宣言を唱和し、平和を願い鐘を鳴らした。
- ・ボランティアでユネスコスクールの太華中学校、秋月中学校、学校法人山口県桜ヶ丘学園 晃英館の生徒さんが参加。生徒さんは式典前後に平和学習を行った。
- ・市内中学校の英会話講師を招待し、外国の方にも知ってもらう機会を提供。中・高生との国際交流の場ともなった。

●参加者:約120人

うちボランティア参加者

太華中学校 8人 秋月中学校 2人

晃英館 10人 外国語指導助手 3人

●成果

式典に参加者された方が、一人ひとり平和の願いを込めて、鐘を鳴らされた。ボランティアで参加した生徒さんたちも、回天記念館の見学や、平和学習を行ったことで、平和について考えるいい機会になったと感想をいただいた。

世界平和について考えることや、戦争について語り継いでいく大切さを感じる機会が提供できた。

●開催日:令和7年8月15日(金)

●開催場所:周南市回天記念館



▲式典の様子



▲チラシ



■周南市戦没者追悼式

先の大戦において、軍人や徴用・学徒動員等の準軍属及び一般市民を含め、戦争の犠牲となられた方々を追悼するとともに、多くの犠牲のうえにもたらされた平和への思いを新たにするため、遺族等の参列による追悼式を挙行了。

また、式典に合唱団による合唱を追加したほか、防空頭巾などの戦時中の実物資料等の展示を行った。

当日は多くの参列があり、追悼と平和への祈りを捧げたほか、展示物により、戦時中の過酷な生活に思いを馳せ、平和の尊さについて考えるきっかけとなった。

●参列数:約200人

●開催日:令和7年5月10日(土) 9:30～

●開催場所:周南市文化会館 大ホール



▲パネル展示の様子



■第9回 平和の島スピーチコンテスト ～山口県内の中高生によるいのちのいのり～

「平和」「命」「人権」等に関する作品を募集。応募数111の中から一次審査を通過した山口県内の中学生(9名)・高校生(3名)によるスピーチを実施した。戦後80年の節目の年でもあったことから、家族や戦争を通してそれぞれが考える平和の実現に向けての思い等をスピーチした。

また、基調講演ではウクライナ出身の古谷ニーナ氏による講演を行ったほか、山口県立徳山高等学校および周南公立大学による平和に関する研究発表の場も設けた。

●開催日:令和7年11月1日(土)

●開催場所:山口県周南総合庁舎 さくらホール



▲コンテストの様子





■「第9回 平和の島スピーチコンテスト」

ユネスコ憲章の前文に謳う「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という精神をひろげ、平和の尊さ、平和な世界について真剣に考え、世界平和の大切さを呼びかける。

●実施内容

- ・周南観光コンベンション協会と共催で開催。
- ・山口県内の中高生から平和についてのスピーチを募集し、その中から一次審査を通過した優秀作品のスピーチコンテスト及び基調講演と徳山高等学校・周南公立大学による平和に関する研究発表を行った。
- ・当日ユネスコ通信を配布。

応募者:111作品 (中学校108作品 高校生3作品)

当日発表者:中学生9人 高校生3人

●成果

応募作品のスピーチや、ウクライナの現状などを伝える基調講演及び平和に関する研究発表など、いろんな世代の意見や視点から平和について考える機会の提供ができた。

●参加者:約90人

●開催日:令和7年11月1日(土)

●開催場所:周南総合庁舎2階 さくらホール



▲コンテストの様子

第9回

平和の島
スピーチコンテスト

～山口県内の中高生によるいのちのいのり～

山口県内の中高生から平和についてのスピーチを募集し、その中から一次審査を通過した優秀作品のスピーチコンテスト及び基調講演を行います。

戦後80年 想いをつなぐ、未来へ。

徳山高等学校および周南公立大学による
平和に関する研究発表を行います。

1日 時
2025年 11月1日(土)
13:00～16:30

1会場
周南総合庁舎
2階 さくらホール
(周南市毛利町2-38)

入場料
無 料
どなたでもお気軽にご参加ください。

基調講演
古谷(ふるや) ニーナさん
ウクライナのリビウ大学を卒業後、山口大学で知り合った現夫と結婚。
2022年2月24日に始まったロシア侵攻を機に、ウクライナ自身として、正しいウクライナ文化や現状を伝える講演活動を行っている。

タイムスケジュール
12:40 開 場
13:00 開会式
13:10 スピーチコンテスト
①中学生の部 ②高校生の部
14:20 基調講演
15:00 平和に関する研究発表
16:00 審査発表/授賞式
16:30 終 了

主催 一般財団法人周南観光コンベンション協会 TEL/0834-33-8424

協賛 徳山ユネスコ協会 後援 周南市 周南市教育委員会 実行 平和の島 スピーチコンテスト

▲チラシ



■周南フィルハーモニー管弦楽団 第22回定期演奏会 戦後80年 徳山ユネスコ協会共同企画 ～平和を願って～

ユネスコ憲章の前文に謳う「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という精神をひろげ、平和の尊さ、平和な世界について真剣に考え、世界平和の大切さを呼びかける。

●実施内容

- ・周南フィルハーモニー管弦楽団と共同企画し、定期演奏会で平和をテーマにした曲目を演奏。
- ・コンサート前に平和の島スピーチコンテストの特選受賞者が作品をスピーチ。
- ・当日ユネスコ通信配布、徳山ユネスコ協会ブース設置。

●成果

コンサートに参加することで、参加者に少しでも平和に対して考える時間を過ごしてもらう機会が提供できた。

●参加者:1,169人

●開催日:令和7年9月20日(土)

●開催場所:周南市文化会館 大ホール



▲演奏会の様子



▲チラシ



■「ユネスコ平和七夕茶会」

ユネスコ憲章の前文に謳う「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という精神をひろげ、平和の尊さ、平和な世界について真剣に考え、世界平和の大切さを呼びかける。

●実施内容

- ・戦後80年を迎え、平和を願いながら、短冊に願いをこめて飾り、お茶を楽しんでもらう茶会を開催。
- ・中学生、高校生がボランティアで参加。

華陵高校 6人

晃英館 7人

周陽中学校 1人 他5人

●成果

茶会に参加することで、参加者に平和に対して考える時間を過ごしてもらい、平和の大切さを感じてもらえた。

●参加者:216人(ボランティア参加含む)

●開催日:令和7年7月5日(土)

●開催場所:周南市徳山保健センター 1階健診ホール



▲七夕茶会の様子



▲ユネスコ七夕茶会チラシ



■平和のメッセージカード

戦後80年写真パネル展示をご覧になった方等を対象に、平和へのメッセージやまちづくりへの思いなどを寄せていただくためのメッセージカードを設置した。

集まったメッセージカードは、専用ボードに吊り下げ、写真パネルとともに市内を巡回し、展示を行った。市民参加型の事業として、多くの方にご協力いただいた。

- 参加者:1,115人
- 開催日:令和7年度
- 開催場所:周南市役所1階ロビー、
JR徳山駅南北自由通路 ほか



▲メッセージカード展示風景



■「平和志向のまちづくり」発表会

周南公立大学の学生がゼミでの学びを活かし結成した「平和志向のまちづくりの会」は、戦後80年記念事業に向けた調査・活動を進めてきた。

今年度の活動の取りまとめとして、また、周南市が開催する「「戦後80年 想いをつなぐ、未来へ。」昭和100年これからの周南」の一環として、調査・活動の成果の発表会を開催した。

1. 終戦80年を契機とした平和再認識と若者の視点

- ・学生が主体となり、戦争の悲惨さや平和の大切さを改めて考える。
- ・若い世代から幅広い世代へ平和の思いを共有する。

2. 調査・活動の成果発表と提言の提出

- ・調査では、戦災県連史跡の訪問や戦争体験者等へのインタビューを実施した。
- ・その結果をまとめ、平和志向のまちづくりに関する提言として周南市に手渡した。

3. 意見交換と特別メッセージの上映

- ・徳山空襲やまちづくりに関する有識者、行政関係者との意見交換を実施した。
- ・特別企画として養老孟司氏からのビデオメッセージを上映した。

●開催日:令和7年12月13日(土) 14:00~16:00

●開催場所:周南市立徳山駅前図書館 交流室2



▲発表会の様子

■大津島公園草刈清掃業務委託

回天訓練基地跡への園路及び展望台広場への園路周辺の草刈りを行い、景観の維持と歩行者の安全を確保した。

●実施日:令和7年4月1日(火)～令和8年3月31日(火)

●実施場所:大津島公園



公園遊具側【着手前】



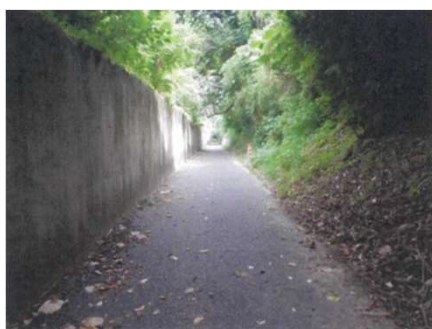
【完了後】



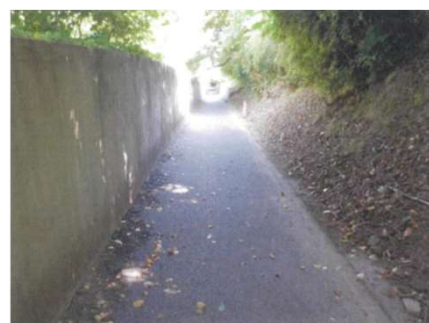
モニュメント下段広場【着手前】



【完了後】



小学校西側通道路【着手前】



【完了後】



トンネル入口【着手前】



【完了後】

■大津島公園草刈清掃業務委託②



登山道入り口【着手前】



【完了後】



登山道中腹【着手前】



【完了後】



登山道入り口【着手前】



【完了後】



魚雷見張台【着手前】



【完了後】

■大津島公園回天訓練基地跡立入防止柵設置工事

回天訓練基地跡の立入防止柵の建替

・天訓練基地跡の施設内への立入防止柵が塩害等により腐食破損していたため、塩害に強い製品で建替えを行い、来園者の安全を確保した。

●実施日:令和7年7月2日(水)～9月30日(火)

●実施場所:大津島公園 回天訓練基地跡



【着工前景】

【完成】

■周南市小中学校による回天記念館の 団体見学に対する乗船料の市負担

周南市内の学校による回天記念館への団体見学に対し、通常の入館料免除に加えて乗船料(児童・生徒・引率職員分)を市が負担する事業を行った。
年間12校、児童と教職員等に対し、乗船料の負担を行った。

- 対象者:約550人(児童)、約40人(教職員等)
- 開催日:令和7年度



▲船乗場風景

■周南市回天記念館 ―命と平和を学ぶ場所― (回天記念館への見学を推奨する チラシの作成、配付)

戦後80年という節目の年に当たり、平和学習の推進を目的として、周南市内の小・中学校に対し回天記念館の見学に関する情報提供を行った。

チラシには、回天の歴史的背景や記念館での館内トークの内容を掲載するとともに、学校利用を想定した公共交通機関の運行情報や所要時間の目安を掲載した。

これにより、学校における平和学習の理解促進と見学実施の参考となる情報の周知を図ることができた。

●開催日:令和7年度8月～

●開催場所:周南市内小・中学校

戦後80年周南市回天記念館見学推進事業

周南市回天記念館 ― 命と平和を学ぶ場所 ―

「回天」は、人が操縦して敵艦に体当たりする特攻兵器として、太平洋戦争末期に開発されました。
“天を回らし、戦局を逆転させる”という願いが、その名に込められています。
山口県・大津島にはその訓練基地の一つが設けられ、全国から集まった20歳前後の若者たちが、過酷な訓練の末に出撃していきました。

内容 【館内トーク】
回天記念館の職員が、「回天」や搭乗員に関する解説を行います。
展示だけでは伝えきれない背景を、ビデオや実話を交えてお話します。

- ・実施日時 平日 10:00～14:00
- ・人数 1回あたり最大30名
- ・※学級毎等、数回に分けて実施することも可能です。
- ・所要時間 館内トーク：約20～25分
映像視聴：約25分
- ・※学習内容や滞在時間に応じて映像の視聴は調整できます。
- ・申込方法：事前予約が必要です。
- ・※詳細は「回天記念館 ホームページ」をご確認ください。

アクセス (電車+船での来館)
・JR徳山駅(みなと口)から徳山港まで 徒歩約5分
・徳山港から大津島(馬島港)まで船でアクセス 約18～34分(通常期)
船の時刻表・料金などは、「大津島巡航ホームページ」をご覧ください。

あの日を知り、今日を考え、明日を創ろう

周南市教育委員会 学校教育課

0834-22-8542
ed-gakkyo@city.shunan.lg.jp

■周南市戦後80年事業特設サイト

特設サイトを開設し、本市の歴史や記念行事などの情報を発信した。特設サイトを通じて、市の活動や理念を広く伝え、市民の参加を促進した。

1 特設サイトの設計と構築

本市の歴史や記念行事、振り返り、イベント情報などを掲載する特設サイトを設計・構築した。

2 広報活動の実施

サイトの開設に合わせて広報活動を行い、サイトの存在やコンテンツを市民に周知した。広報資料やソーシャルメディアを活用して情報発信を行った。

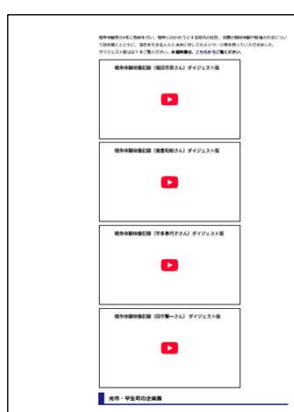
3 コンテンツの更新と運営

サイトの内容を定期的に更新し、最新の情報や活動状況を反映した。

※令和8年度以降は文化振興課による管理。

●開催日: 随時

●開催場所: 市公式ホームページ



▲ホームページ

■戦後80年事業ロゴデザイン

戦後80年事業で使用するロゴデザインを制作し、公式文書や広報資料等で使用した。

ロゴデザインの制作と利用促進:
制作したロゴデザインを公式文書、ホームページ、広報資料等で展開することで、一貫したイメージを強化した。

戦後80年事業を市として展開するにあたり、新しいロゴデザインを通じて市内の一体感を高め、市民に対して統一感のあるメッセージを発信することができた。

●開催日:随時

●開催場所:公式文書、ホームページ、広報資料等

想いをつなぐ、未来へ。
昭和100年これからの周南



戦後80年

▲ロゴデザイン

■大津島島内の観光看板修繕

大津島島内に設置している13か所の観光案内看板について、経年劣化による色落ちや多言語表記に対応するため、新たに統一的なデザインで日本語と英語を併記した看板へ掛け替え、受入環境の充実を図った。

●開催場所：大津島島内



▲看板

■戦後80年事業特設サイト

令和7年度に広報広聴課にて設計・開設した戦後80年事業特設サイトは、令和8年度以降、文化振興課にて管理・運営を行う。

中国、アメリカ、台湾等、国外からのアクセスもあり、日本国内のみならず、本市の取り組みを世界に発信するツールにもなっている。

今後も様々な部署や施設における戦後80年事業の情報を集約するプラットフォームとして、継続して情報発信を行う。

●開催場所：ホームページ



▼ホームページはこちら



周南市戦後80年事業記録誌

発行 令和8(2026)年9月
編集 周南市文化スポーツ観光部
文化振興課
〒745-8655 周南市岐山通1-1
電話:0834-22-8622

想いをつなぐ、未来へ。
昭和100年これからの周南